

## 環境改善を実施した林内ホダ場土壌の放射性物質状況の変化 (2) - 環境改善 (A<sub>0</sub>層除去) を実施してから約1年半後の結果 -

### 1 はじめに

土壌に含まれる放射性物質がホダ木に及ぼす影響を抑えるために、堆積有機物層 (A<sub>0</sub>層) の除去が行われています。A<sub>0</sub>層除去による土壌の放射性物質濃度 (以下「濃度」) の低減効果は、実施の1年後でも持続することが明らかになっています (林業技術情報No.60)。今回は、処理から約1年半後の土壌中の濃度と、地面1m<sup>2</sup>あたりの放射性物質量 (以下「量」) を測定し、これまでの結果と比較して、処理の効果と持続性を推測しました。

層では除去1年後と同様に放射性物質が検出されました (図上段)。しかし、1m<sup>2</sup>あたりの量は、いずれの調査地でも非除去区より小さな値を示しました (図下段)。非除去区の1m<sup>2</sup>あたりの量に対する除去区の割合は、いずれの調査地でも3割程度でした。なお、スギ林の非除去区では、1m<sup>2</sup>あたりの量が前年より大きく増え (図下段)、その原因は放射性物質の付着した葉の落下、堆積 (No.64) と思われました。

### 2 調査方法と結果

**【方法】**平成24年11~12月に、一関市内のアカマツ林、スギ林、広葉樹林の3調査地に、A<sub>0</sub>層除去区と非除去区を設けました。A<sub>0</sub>層除去直後 (平成24年12月~平成25年3月)、除去約1年後 (平成25年11月~12月) および約1年半後 (平成26年4月) に、各区内の13~16点からA<sub>0</sub>層とA層を採取して、生重量当たりの濃度を測定し、併せて量を求めました。(採取方法はNo.60参照)

**【結果】**A<sub>0</sub>層除去の1年半後には、林床は落葉で覆われていました (写真)。すべての調査地で、除去区のA<sub>0</sub>



除去1年半後の除去区の地表 (アカマツ林)

### 3 成果の活用

除去区の値は依然として非除去区より低く、除去の1年半後も除去の効果は持続していることが確認できました。今後も同様の調査を継続しつつ、ホダ木や子実体への影響を調査していく予定です。

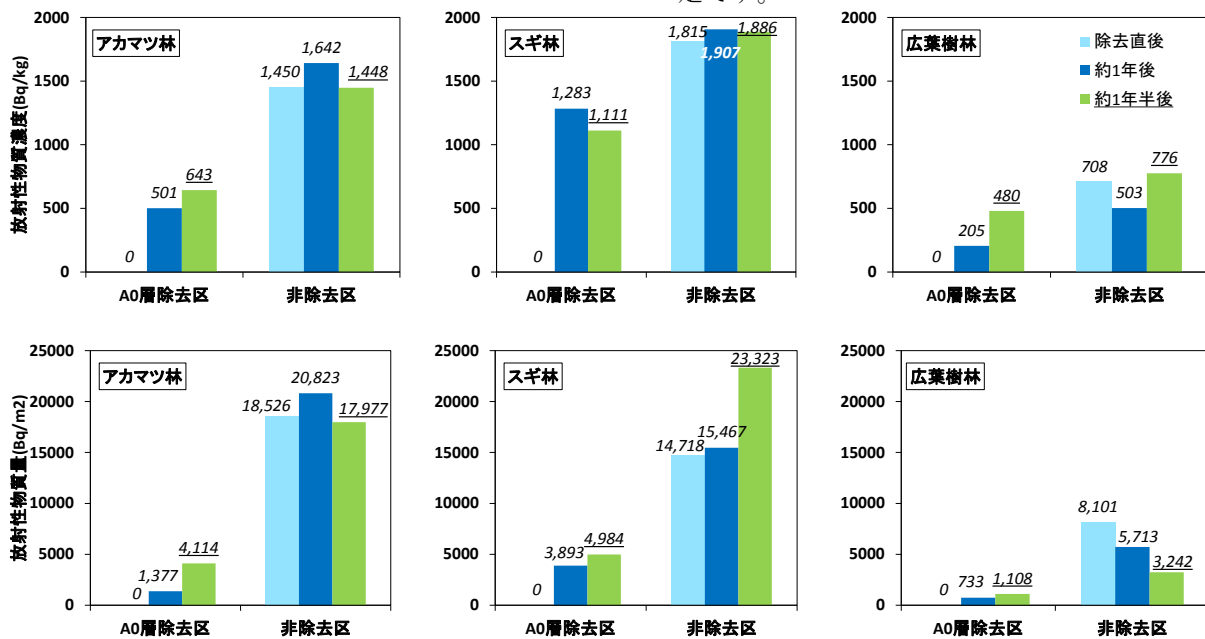


図 A<sub>0</sub>層の放射性物質濃度 (上段) と放射性物質量 (下段)

(担当 研究部 主査専門研究員 成松 眞樹)

連絡先	028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11	TEL 019-697-1536
	岩手県林業技術センター	FAX 019-697-1410
	ホームページアドレス <a href="http://www2.pref.iwate.jp/hp1017/">http://www2.pref.iwate.jp/hp1017/</a>	